資料１

2022年度　資源リバランス事業化研究会（第１回）

昨年度到達点の確認と2022年度計画案

昨年度の総括と課題

■共有された情報

- 国内政策動向、国際的な気候危機や社会経済循環の状況
- 会員企業で取り組まれている各種技術情報
- 農林水産業の高度化や地方圏の振興に資する情報
- 国際的・大規模なビジネスの種となり得る各種情報

■事業モデル（案）の提案

- 地域循環共生圏の構築を視野に入れた新たな廃棄物処理事業（資源循環産業モデル）
- 「化石資源からバイオマス資源への移行」「バイオマス資源の循環による高付加価値化」に資する複数の事業モデル
  - ➢ 欧州の製品情報・規格化等の戦略に基づく「高付加価値の資源循環（製品系､プラ等）」に関する事業モデルの実現には、更なる情報収集・検討が必要

資源循環分野の新事業モデルの例

素材・品目に着目

公民連携事業モデル（中間処理施設活用・中小規模型）

・地元処理業者が既存施設を活用して一廃処理を受託
・実績を重ね、受託規模・エリア・品目を拡大

素材・リファイナリー事業モデル

●化石資源代替となるバイオマス素材・製品の生産
・原料として有効な動植物残渣を一定量回収し、バイオ素材を生産

地域循環共生圏事業モデル（個別技術活用型）

・一廃とバイオマス資源等の合わせ処理
・得られた飼料、肥料、燃料、エネルギー等の地域循環利用
・技術実証⇒事業モデル化⇒地方圏で事業化⇒全国展開

製品データ管理事業モデル

・機能性製品を複数回利用することを目的に履歴を管理
・リース・レンタル・シェアリング等の長期間使用
・発電、蓄電等の機能劣化も含めたカスケード利用
・必要となる物流、メンテ、解体等の技術を内包

循環（CE）目線のエコデザイン提案モデル

・サーキュラーエコノミーの観点で処理側から上流側への提案

インフラに着目

公民連携事業モデル（中間処理施設活用・大規模型）

・民設民営の処理施設で産廃と一廃を合わせ処理
産廃で稼働率を高め事業採算性を保ち、周辺地域の一廃処理を受託
・地域エネルギー供給、災害廃棄物処理、産業活性化、雇用創出

全国チェーンとの連携事業モデル（ネットワーク活用）

・企業のネットワークを活用し廃棄物や残渣の情報管理、回収、設備メンテナンス、リサイクル等を一括して実施

地域循環共生圏事業モデル（地域インフラ活用型）

・人口減少で稼働率が低下した地域インフラの有効活用
・小規模・分散型設備をリモートで集中管理

時間軸活用型事業モデル（処分場等活用）

・廃棄物発生と再生品需要のタイムラグを貯留
・処分場技術で解消
・将来的に資源として利用

大規模物流事業モデル（海上･鉄道輸送インフラ活用型）

・リサイクルポートや海上輸送、鉄道網を活用した事業

マーケットに着目

レジリエンス事業モデル

・災害時を想定した廃棄物処理施設の拠点機能の付設
・他地域からの災害廃棄物の受入･処理

カーボンニュートラル（CN）事業モデル

・CO2排出削減･回収･利活用関連技術･プロセスの導入
・CO2削減に資する社会システムの提案･構築

地域循環共生圏事業モデル（地方創生型）

・地域のステークホルダーの連携による産業振（処理事業者、工務店、地方金融、農林水産業、NPO等）地域の各種資源の活用
・地域収入増と地域外への支出(流出)削減による地域収支の改善

リース・レンタル・シェアリング事業モデル

・複数回利用･長寿命化･修理等を目的に履歴を管理
・リース・レンタル・シェアリング等の事業化を実現
・機能劣化も含めたカスケード利用のシステム化
・必要となる物流、メンテ、解体等の技術を内包

海外事業モデル

・EU規制等も視野に金属資源、機器類の国際資源循環を構築

2022年度計画案（1/4）

１．2022年度研究会の開催

■開催回数　６回／年　　各回 13:00～17:30を想定

第１回：4月26日（火）　　第４回：10月6日（木）

第２回：６月14日（火）　　第５回：12月6日（火）

第３回：8月9日（火）　　第６回：2月7日（火）

■会　　場　日本プレスセンター　10階会議室

■事 務 局　（株）エックス都市研究所

応用地質（株）

いであ（株）

（株）ＣＢＡ

（株）リバースネット

2022年度計画案（2/4）

２．2022年度研究会の目的

（１）本研究会

- 2030年、2050年における資源リバランスの社会像の描写
- 新たな事業化分科会の設置（参加条件の検討を含む）と運営
- 事業モデルの想定と実現に向けた道筋の検討
- 2030年に向けての資源リバランス構想の深化

（２）分科会

- 事業モデルの実証事業計画とその実装の進め方検討
  - ・開催方法（案）：直接会場参加・WEB 参加のハイブリット形式
  - ・開催日程：本研究会開催前日午後又は同日午前を中心に随時

2022年度計画案（3/4）

３．計画中の分科会

（１）資源貯留型処分事業化分科会

（２）バイオマス資源循環

①バイオリファイナリー・コンビナート事業化分科会

②地方循環経済圏形成事業化分科会

（３）社会インフラ（下水道・廃棄物処理施設等）活用事業化分科会

（４）蓄電池関連スマートグリッド事業化分科会

（５）内航全国資源輸送・災害廃棄物広域処理　資源化ネットワーク形成事業化分科会

2022年度計画案（4/4）

４．スケジュール（案）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
本研究会	●		●		●		●		●		●
基調講演（予定）			● 江上顧問		● 藤田副座長		● （以降依頼中）		●		●
分科会											
素案紹介	●										
意見・質問等	━━━		５月末まで								
設置分科会確定			●								
参加者募集			━━━		７月末まで						
分科会活動					━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━	━━━ ┅
概要報告①							● ３分科会程度				
概要報告②									● ３～５分科会		
まとめ											●